

還暦（感激）の結婚式を今……

水谷まさ

三重県・六〇・主婦

今日、真珠の指輪を買いました。

あなたと約束した「還暦の結婚式」のために。

三〇余年前、「K」福祉施設の職員だった私達は、福祉大の同級生で、結婚を決意した時、所持金は施設に還元、零の出発で、二人が還暦を迎えた時に結婚式を……と誓いました。しかし、その思いも束の間のもので、数年後たった一枚の賞状になってしまったあなたでしたが、誓いの言葉は決して反古にならず、私の還暦にあなたの二七回忌を迎え、約束通り「仏前結婚式」が行われる年となりました。

親戚一同を招待、あなたが主役の日です。

だから、私の誕生石「真珠」を選びました。

仲人は、あなたの死を引金に脳血栓で倒れ、寝たきりとなったお姑さまです。今も、昔も、私達のいちばんの理解者だからです。

入院当初は、病室に附添う私を、縛れた舌で「か・え・れ、か・え・れ」と激しく拒絶するので、看護婦さんから「病人を興奮させないよう」外に追い出されることもありましたが、その時お姑さまの眼尻からツツと、光るものが……。

短い結婚生活で私を縛り、寝たきり病人の介護までさせられないという、愛情の裏返し。

あなたを生んでくれたお姑さまだから、どんな言葉も私には熱く抱えられるのでした。

半身不随でも言語障害が残らなかったのは「か・え・れ、か・え・れ」の絶叫で、声帯麻痺を捻じ伏せた……と、今では笑い話にされています。

福祉という自我をなくした職場で知り合った二人、あなたに尽くせなかった分をお姑さまの介護へ……それが私の生甲斐ですが、介護の手に指輪は禁物、けれども、大切な介護の手の「お護理」となる真珠を、結婚の証明にするその日は、もう、すぐなのです。

あ、な、た……。